

甲南医療センター

脳神経外科

指導担当医（役職）

藤田 敦史（診療部長）

実習概要

実習コース

2週間コース・4週間コース（どちらも可、ただし同時受入は不可）

概要

脳神経外科の主治医団として診療に参加します。病棟では主として周術期の数人の患者を受け持つことで、脳神経外科疾患の周術期管理を学ぶ事を目標とします。主治医と共に患者の神経診察を行い、画像診断に関してもその読影の「いろは」を指導するようにします。担当患者の手術や、脳血管撮影等の検査にも参加して、手技についても学んで頂けるようにします。手術手技については、術前計画から術中の解説、手術記録の記載に関しても基本的な事を理解できるようにすることを目標とします。当科は脳神経内科と脳卒中チーム医療を行っており、毎日搬送されてくる急性期脳卒中症例の急性期治療にも参加でき、脳神経内科との合同カンファレンスでは症例提示をすることも目標とします。具体的な実習の内容については、実習希望の学生の希望を聞いて柔軟に対応します。

実習スケジュール

1. 毎朝8時35分からの病棟回診に参加して、入院患者の診察を行うとともに検査や手術等の予定を確認する。特に、担当の患者に関しては、主治医団とともに検査計画等を組む。
2. 脳血管撮影検査（月曜日午後及び木曜日全日）：担当患者でない検査にも参加可能であり、カテーテルの取り扱い、検査手技について学ぶことを目標とする。
3. 手術実習（火曜日全日）：担当患者でない手術にも参加可能であり、脳神経外科疾患の手術について学ぶことを目標とする。手術前のインフォームドコンセント取得時にも説明の場に立ち会い、医師と患者及び家族との間でどのような「説明と同意」がなされているか学ぶ。

4. 脳卒中ホットラインによる救急隊からの収容要請を主治医団と共に受諾し、実際に救急外来に搬送されてくる脳卒中患者の診察、処置を救急外来で行う。引き続き緊急カテーテル手術や開頭手術が必要な症例に関しては治療に参加する。これにより脳卒中患者の救急診療について学ぶ事を目的とする。
5. 脳卒中カンファレンス（水曜日8時35分より、脳神経内科との合同カンファレンス）に参加し、当該週に入院、治療を行った担当症例のプレゼンテーションが行えるように指導する。

学生へのメッセージ

当院は「24時間/365日断らない救急」を理念に掲げており、例として2024年度の救急車搬送台数は7039件となっております。神戸市東灘区において脳神経外科的処置が可能な「唯一無二」の施設であることから、2024年からは救急隊から直接電話を受ける脳卒中ホットラインを開設してよりスピーディーに患者受け入れと治療を行えるように院内体制が整えられております。東灘区は人口21万人と神戸市では西区、垂水区に次いで第三位の人々が暮らしており、高齢化率は25.2%と全国平均や神戸市平均と比較するとまだ低いですが、今後は高齢化が進むにつれより一層脳卒中医療の需要が高まると考えられます。当院での研修で、脳卒中治療の最先端治療を経験していただき、脳神経外科の魅力を感じ取っていただければと思っております。